

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農村教育推進費

### 事業名 岐阜県就農支援センター施設整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業経営課 担い手対策 就農研修係 電話番号：0584-53-0175

E-mail：c11419@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 9,448 千円 (前年度予算額：0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	9,448	0	0	0	0	0	0	0	9,448
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・農業従事者の急速な減少や高齢化に対応するため、「ぎふ農業・農村基本計画」の中で、担い手の育成確保を最優先課題と位置づけ、「産地の実情に応じた多様な担い手づくり」、特に、新規就農者の育成確保を進めている。
- ・平成26年4月に、冬春トマトの研修施設「岐阜県就農支援センター」を開設し、独立ポット耕栽培システムによる冬春トマトの栽培技術や農業経営に必要な知識、技能等の研修を実施している。
- ・研修を修了した第1期生から第9期生までの計29名（夫婦2組を含む）が、冬春トマトの新規就農者として県内で営農を開始している。
- ・現在は第10期生3名が就農に向け研修中である。
- ・岐阜県就農支援センターの事業を円滑に進めるためには、施設・設備等の老朽化が進まないよう更新等を行う必要がある。

### (2) 事業内容

- ・岐阜県就農支援センターの事業を円滑に進めるため、劣化が進んでいるトマトハウスの屋根面、妻面、側面の被覆フィルム及び防虫ネットの張替工事を行う。
- ・当該ハウスの被覆に用いられているフィルムは耐用年数5年であり、令和6年7月で前回の張替えから5年を経過するため、更新が必要である。

### (3) 県負担・補助率の考え方

- ・国庫補助：なし
- ・県負担：全額県費

### (4) 類似事業の有無

なし

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	9,448	栽培研修ハウス(3456m <sup>2</sup> )及びスマート農業モデル温室(432m <sup>2</sup> )の屋根面、妻面、側面の被服フィルム及び防虫ネットの張替工事
合計	9,448	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画の基本方針の「ぎふ農業・農村を支える人材育成」において、「産地の実情に応じた多様な担い手の育成・確保」を位置づけている。

### (2) 後年度の財政負担

なし

### (3) 事業主体及びその妥当性

- ・新規就農者の育成には、行政機関、関係機関及び生産者団体などが一丸となって支援していくことが必要である。また、本事業の取り組み成果を県下の産地へ波及させることを目指していることから、県が主体となって推進していくことは妥当である。
- ・新規就農者の育成には、行政、関係機関、生産者団体が一体となった支援が必要であり、そのモデルとするため県が開設したのが岐阜県就農支援センターであり、県が当該施設の維持管理を行うことは妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

平成26年度に開設した県就農支援センターにおいて、冬春トマト栽培の新規就農者を育成する研修運営を行い、毎年4名の新規就農者を育成する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H25)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (一)	達成率
①冬春トマトの新規就農者	0	4	4	4	4	100%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容と成果を記載してください。</li> <li>第6期の研修者3名、第7期の研修者2名に対する研修を実施するとともに、就農地の市町村、JA等関係機関と連携して研修者の円滑な就農を支援し、研修者2名が新規に就農した。</li> <li>第8期の研修者の募集を実施し、研修者5名を確保した(夫婦1組を含む)。</li> </ul>
	指標① 目標：__4__ 実績：__2__ 達成率：__50__ %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容と成果を記載してください。</li> <li>第8期の研修者5名、第8期の研修者4名(2名は中途退所)に対する研修を実施するとともに、就農地の市町村、JA等関係機関と連携して研修者の円滑な就農を支援し、研修者4名が新規に就農した。</li> <li>第10期の研修者の募集を実施し、研修者3名を確保した。</li> </ul>
	指標① 目標：__4__ 実績：__4__ 達成率：__100__ %
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度当初予算にて追加</li> </ul>
	指標① 目標：__ __ 実績：__ __ 達成率：__ __ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ <b>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b>  <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>農業の担い手不足が深刻化しており、新規就農者の育成・確保が喫緊の課題となっている一方、新規就農を取巻く諸環境が厳しさを増す中で、就農支援センターの意義は非常に大きい。また、ここでの取組みの成果を県下各地へ波及させていくには、引き続き、県の関与が必要である。</p>
<p>・ <b>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b>  <small>3：期待以上の成果あり                  2：期待どおりの成果あり                  1：期待どおりの成果が得られていない                  0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>就農支援センター開設以来9年で27名が冬春トマトで新規就農している。特に、海津市においては20名(18組)が就農し、地元のトマト生産者数の4分の1以上をセンター修了生が占める状況となっている。これらにより、地域農業に活力が出てきており、事業の有効性は非常に高い。</p>
<p>・ <b>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b>  <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>独立ポット耕栽培技術の濃密指導を行っており、研修者の栽培技術の向上に繋がっている。また、研修者4名が確実に就農できる支援体制も十分整備されており、研修者からの評価も高く、事業の効率性も非常に良い。</p>

### (今後の課題)

<p>・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b>                  生産資材全般の価格が高騰する中で、研修生に対しては就農直後から堅実な農業経営を実現することが求められており、栽培技術のみならず、経営を管理する能力を習得できるような研修を行う必要性が高まっている。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b>                  就農支援センターで毎年新規就農者を育成することが、地域農業の維持・発展に大きく貢献していることから、次年度以降も継続して、研修者の確保、新規就農者の育成に取り組む。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	